

				評価		次年度への主な課題と目標
部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合		
1	事務局	来客・生徒への迅速な対応、経費の節減に努める。 また不審者対策を行う	生徒・来訪客の対応を親切的確に行う	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・来訪者への対応 親切かつ丁寧でわかりやすい説明など対応を継続していく。 ・コスト意識の醸成 引き続き光熱費の高止まりを想定し、職員・生徒の一人一人が節電・節水に取り組むよう意識を高めていく。 ・関係機関への提出文書・回答文書 期日管理を徹底しながら、報告内容の向上を高いレベルとしていく。 ・電話対応および窓口対応力の向上 常に相手目線での対応を心掛けることで、満足度の向上を図る。
			節水・節電をことある毎に職員・生徒に呼びかける	B		
			不審者の侵入を教員と連携し、その防止に努める	B		
			関係機関への提出文書・回答文書について正確性の向上と期日厳守を図る	A		
			積極的な挨拶と声かけを徹底し、接客技能の向上と防犯対策を図る	B		
2	広報部	関係機関と連携し、広報活動を活発に行い、本学園の教育方針の広報・啓蒙に努め、生徒募集に寄与する。	小学校・中学校・塾・予備校と頻りに連絡をとり本校教育について啓蒙を深める	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県外、海外からの入学者を増加させるため、校内および校外での学校説明会・相談会の開催回数や質を改善する。 ・本校の教育活動の成果をより効果的に広報するため、ホームページや出版物の質を高める
			本校教育を浸透させるために、学園祭・オープンキャンパス・体育祭等学校行事に積極的に係わり、学園来訪者等に広報・啓蒙に努める	A		
			本学園HPを充実させ、学校案内の作成、PTA新聞を作成し、広報活動に努める	A		
			校内および校外での入試説明会・相談会の開催回数や質を改善する	B		
			本校の教育活動の成果をより効果的に広報するため、ホームページや出版物の質を高める	B		
3	異文化交流部	情報を全生徒保護者に伝達し、全生徒に異文化交流の機会を提供できるようにする。	異文化交流プログラムの情報が個々の生徒や家庭に正確かつ効果的に提供する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒に異文化体験の機会を提供できるよう、広報活動や説明会の質を高める。 ・学年主任やクラス担任との連携・連絡をしっかりと構築する。
			プログラムに参加する生徒に事前研修を徹底し、安全性を確保、かつ習得効果の大きなプログラムを提供する	B		
			プログラムから帰国した生徒への確かな事後報告の機会を提供し、適切な進路指導を行う	B		
			全校生徒に異文化体験の機会を提供できるよう、広報活動や説明会の質を高める	B		
			学年主任やクラス担任との連携・連絡をしっかりと構築する	B		
4	学寮	寮則にのっとって規律正しい寮生活を送り、連帯感を高めていけるよう指導する	入寮生への寮則の徹底を図り、規律性を保つ	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦で開催できなくなっていた、寮内のイベントの充実を図る
			寮内の生活、環境美化やプログラム運営で、寮生の自発的な取り組みを促す	B		
			寮生や保護者とのコミュニケーションを徹底し、信頼関係を構築する	B		
			舎監相互の連絡体制を構築し、寮教育の一貫性を保つ	A		
			各寮の運営においてそれぞれの設置趣旨を徹底し、入寮生の満足度を高める	B		
5	教務部	生徒の志望大学合格8割以上を目指したカリキュラム、授業や家庭学習のあり方を研究すると共に、グローバル社会で信頼され、活躍できる人材を育成する	チェックテスト、定期考査を定期的に実施し、その結果をもとに特別授業を行うことで未習得の生徒を出さないように努力する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・左の各項目において、中学・高校・学年間で達成度にバラつきがあるので、全体を上方修正できるように整える。 ・諸行事の報告・連絡・相談・決定のスピードを上げ、共有を徹底する。 ・こなす・回す、だけでなく生徒の実績を伸ばす取り組みを行う。
			定期的に模擬試験を行い、その結果を教員、生徒、保護者に伝達するだけでなく、その結果をもとに現状の学力分析を行い、次回までの課題やその方策を検討する	B		
			生徒の現状に関するさまざまな情報を、学年会やコース会を通して教員間で共有すると共に、毎学期の教育相談を充実させる。また、問題のある生徒に対して全員一丸となって取り組み、生徒にとって最もよい解決を目指す	A		
			国際社会で信頼される、文武両道の教養人を育成するために、「教養」「倫理感」「文化力」「コミュニケーション力」を高めるために、全職員一丸となって取り組む	B		
			事前に計画をたて、円滑な学校運営に努める	B		
6	中1学年	まずは、中学校生活に慣れ、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用をつける指導をする。また、様々な学校行事や部活動を通して、学校の楽しさ、学ぶ意欲を感じる指導を行う。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネッセ模試 S以上50人 A以上160人 全員がB以上 ・習得目標達成率 習得率8割以上が全生徒の8割以上 ・英検 全員3級以上 ・沖縄空手 全員3級以上 ・ボランティア、異文化体験に参加を促す ・学校全体で異文化・ボランティア活動の割り振りの仕組みづくりが必要 ・自主学習できる力を身につけさせる
			ベネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B		
			全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	A		
			全員が沖縄空手の目標級を達成できるよう指導する	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B		
			月1回の学年会を開催し、効果ある授業、学校行事の精選、学級活動・部活動の活性化に取り組み、楽しい学校作りを目指す	A		
7	中2学年	学校が掲げる目標項目に、学校生活の中で自然に取り組む、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用をつける指導を行う。また、諸行事を通して連帯感を育む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネッセ模試 S以上50人 A以上160人 全員がB以上 ・習得目標達成率 習得率8割以上が全生徒の8割以上 ・英検 全員3級以上 ・沖縄空手 全員3級以上 ・ボランティア、異文化体験に参加を促す ・学校全体で異文化・ボランティア活動の割り振りの仕組みづくりが必要 ・自主学習できる力を身につけさせる
			ベネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B		
			全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	B		
			全員が沖縄空手の目標級を達成できるよう指導する	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A		
			月1回の学年会を開催し、効果ある授業、学校行事の精選、学級活動・部活動の活性化に取り組み、楽しい学校作りを目指す	A		

令和5年度 学校自己評価				評価		次年度への主な課題と目標
部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合		
8 中3学年	学校が掲げる目標項目に、学校生活の中で自然に取り組み、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用力をつける指導を行う。また、諸行事を通して連帯感を育む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセ模試 S以上50人 A以上160人 全員がB以上 習得目標達成率 習得率8割以上が全生徒の8割以上 英検 全員準2級以上 沖縄空手 全員2級以上 ボランティア、異文化体験に参加を促す 学校全体で異文化・ボランティア活動の割り振りの仕組みづくりが必要 自主学習できる力を身につけさせる 	
		ベネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B			
		全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	A			
		全員が沖縄空手の目標級を達成できるよう指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B			
		中学・高校間の教師の交流を促進し、中高間の教科・科目の連携を強化して大学進学に直結できる、わかる授業を指導・研究する	B			
9 高1学年	内部進学生は、高校への接続をスムーズに行い、かつ発展的に高校課程を学習できるように、中学と高校が連携して指導を行う。外部進学生については高2までに内部進学生と同じ進路になるよう、学習指導に取り組む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、全員を伸ばす授業の徹底を図る	C	A	<p>学力向上に向けた指導のあり方について具体的な方策が必要であり、この点に向けた教員の意識の改革が必要。次年度にあっては学力が伸び悩む現状を深刻に分析すること。教科別に授業、カリキュラムの見直しを行うこと。達成状況を都度確認すること。生徒の学力向上に向けたモチベーションを図り、意見交換を行うことなど、取り組むべきことは多い。しかし、最も重要なことは現在の学力状況に教員自身が危機感を持ち、改善に向けた取り組みに対して積極的であることである。</p>	
		ベネッセ模試および習得目標達成率の学年目標の達成を図る	C			
		全員が高1で英検準2級以上取得を目標に指導する	A			
		内部進学生は全員が空手1級以上、外部進学生は全員が4級以上の取得を目標に指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	C			
		中学・高校間の教師の交流を促進し、中高間の教科・科目の連携を強化して大学進学に直結できる、わかる授業を指導・研究する	C			
10 理系コース	生徒及び保護者へ細やかに入試情報を提供し、コースが一体となって進路指導・受験対策を行う。また、教務&進路指導部と連絡を密にし、時宜を得た進路説明会や入試対策を行う。	模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 高3 国公立大&大学校の合格者70人(県外30人・県内40人) 推薦系受験での合格者増加も目指し、その対策を発展させる 高2 国公立A判定以上15人 B判定35人 C判定45人 英検高2 全員2級以上 空手 内生80%初段以上 外生の80%以上が2級以上 高2全員がボランティア年2回以上、異文化体験年1回以上 生活習慣を徹底し授業での集中力向上を目指す 学校の全内容に全力で取り組む姿勢を育てる 社会人になっても活かせるマナー力を磨く 問題解決能力を身に付けるように指導する 	
		理系教科の強化を図り、生徒ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	B			
		進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進学意識を高め、保護者への情報還元を図る	A			
		模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	B			
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B			
		大学合格実績のコース目標を達成する	A			
11 文系コース	志望校合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者に対して入試情報を提供し、情報を共有する。	模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 英検の大学受験における有用性の周知。 少しでも早い進路決定。 	
		文系教科の強化を図り、生徒ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	A			
		進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進学意識を高め、保護者への情報還元を図る	A			
		模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	A			
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	B			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B			
		大学合格実績のコース目標を達成する	B			
12 東大・難関コース	コース目標大学への合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者に対して入試情報を提供し、情報を共有する。	模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う		B	<ul style="list-style-type: none"> 教科間、個人間の指導力・熱意の格差をできる限り失くし、コースの実績向上をはかる。 授業研修・入試問題研究を行い、教科担当の指導力を高める。 	
		難関大学受験を見据え、二次試験型、理社選択科目の強化を図り、生徒ごとの成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	A			
		進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進学意識を高め、保護者への情報還元を図る	A			
		模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	B			
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	B			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A			
		大学合格実績のコース目標を達成する	B			

			評価		次年度への主な課題と目標	
部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合		
13	国際文化コース	世界各地で11月に行われるIB試験結果を利用し、国内の国公立大学、私立大学と海外大学への受験をサポートする。ManageBacを使用して保護者が生徒の成績を確認できるようにする	IELTS 対策、英検対策に力を入れ、英語力向上に努める	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度は全員がディプロマを取得した(100%)ので来年度も同様の結果を目標にする。 ・2,3年生全員がIELTSを受験しその成績を海外大学受験や国内大学受験に利用する。今年度高3年の英検取得は、1級3名、準1級7名、2級6名で全員が2級以上取得したので、来年度は全員がIELTS6.0以上と準1級以上取得を目指す。 ・全員が指定校推薦、総合型入試、IB入試を利用して国内外大学への出願に挑戦し、志望大学への合格を目指す。 ・沖縄空手で内進生が2段、外進生が初段を目指して真摯に空手の練習に取り組む。 ・CAS活動を通して全員がボランティア活動や異文化交流に挑戦する。
		全員がIBディプロマが取得できるよう丁寧に指導する		A		
		英語圏大学の情報を収集し、広く生徒・保護者へ情報を提供する		A		
		IBのスコアを利用して国内外大学へ進学希望する生徒の合格を目指し、補講・個別指導等を行う		A		
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する		A		
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する		A		
		大学合格実績のコース目標を達成する		A		
14	体育コース	スポーツを通して、人間力と精神力を鍛え、学力を伸ばして、上級学校進学を目指す。各部とも県大会は勿論のこと全国大会上位入賞を目指す。	全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動と学業のバランスのとれた学校生活を通して人間力の育成を図る ・英検取得者数を増やす(高1→80%以上が4級以上) ・沖縄空手高3終了時までに全員が初段以上 ・全国大会上位入賞を目指す ・年に1人1回以上はボランティア活動や異文化体験を行う ・高3は全員が希望の大学等に合格をするための取り組みをする
			野球、柔道、テニス、の各部の指導を適切に行い、県大会、全国大会において上位入賞を果たす	A		
			朝自習、読書指導、部活練習が十分に行われるように指導する	A		
			早朝清掃等のボランティア活動が十分に行えるように指導する	A		
			進路指導部や学年会とも連携を図りながら、進路指導、進路説明会を実施する	A		
			大学合格実績のコース目標を達成する	A		
15	生徒指導	生徒指導のない学校を目指し、冲尚生らしい校風を構築するために、積極的な生徒指導を行い自立、自覚を持った生徒を育成する	生徒会を中心に学園祭、オープンキャンパス、体育祭、遠足等行事を取り組み学校行事の資質向上を図る	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特に公共の場所でのマナーの向上を徹底、学ぶ場を設定する。
			学園の制服に誇りをもち、礼節を重んじ、授業活動等5分前に行動し、明るくキビキビした行動がとれるようにする	B		
			公共のマナー、交通安全マナー向上をはかり、学校周辺の朝清掃などボランティア活動にも積極的に関わる寛容な姿勢を醸成する	B		
16	進路指導	本人の志望、能力、経済的状況を勘案し、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への進路指導ができるように、コースや学年そして学級と連携を密にする。	学年会、コース会と連携し、生徒、保護者への進路相談会を定期的に開催する	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路相談会を定期的に開催するよう年間行事日程へ組み込む。 全国模擬試験を開催し、その結果のデータを作成し、各科、コースそして学級担任に提供する。河合塾の提供する模試NAVIシステム、ベネッセのClassiを積極的に活用する。 進学ガイダンス業者と連携して大学説明会を実施する。総合的探究学習とからめて出張講座を開講する。必要に応じて大学の個別説明会を実施する。 県内県外の各種研究会により積極的に参加してデータを収集し、各科、コース、担任に還元する。 グローバル化の中で将来の職業を見据えた進路選択が行えるように、大学の入試等の情報を収集し、生徒・保護者へ提供する
			全国模擬試験を開催し、その結果のデータを作成し、各科、コースそして学級担任に提供する	A		
			必要に応じて大学入試課や外部講師を招聘し、大学説明会や出前講座等を開催する	A		
			各種研究会に参加し、データを収集し、各科、コース、担任に還元する	B		
			将来の職業を見据えた進路選択が行えるように、大学の入試等の情報を収集し、生徒・保護者へ提供する	B		
17	保健	生徒・教職員の心身の健康を図り、自己の健康管理意識の育成と自発的な健康増進を目指す。	カウンセラー、養護教諭とでカウンセリングを工夫しクラス担任と共にカウンセリングに当たり、生徒・教員の心身の健康に務めさせる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同様の学校伝染病2類になったが、引き続き感染症拡大防止への取り組みを継続していきたい。 【高校】生徒の様々な心身の問題を担任、カウンセラーと共有し、生徒が充実した学校生活を送れるようにサポートしたい。 【中学】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が感染予防対策を日常生活の中で実践できるように支援する。 ・生徒が自己の健康状態を認識し、健康問題に向き合い、日常生活のなかで自己の健康管理ができるように支援する。 ・生徒の健康問題に対し、カウンセラー、教員との情報共有を行い問題解決に向けて取り組む。必要時は保護者への支援を行う。
			心身の健康に関する相談を常時受け付け、生徒が充実した学校生活を送れるようにサポートする	B		
			思春期の心身の問題をカウンセラーや担任、養護教諭で連携を取りながら対応し、生徒や保護者の支援に務める	A		
			生徒の健康は基本的な生活習慣のあり方から認識させ自己管理に務めさせる	A		
18	図書館	図書館を計画的に整備し、生徒の読書習慣の育成に努め、生徒の読書・学習の展開する場とする。	新刊図書を紹介、リクエスト購入、不在図書、破損図書の再度購入	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度中学一年生の利用増加に伴い、シリーズ物などの巻数抜けを埋める作業を行った。生徒の協力によりある程度埋まってきている。これを次年度も継続していく。また近年、公共・大学・学校図書館共に漫画を入れることが推奨されるようになってきているため、学術知識や心理的描写等を中心に生徒に役立つ資料をいれていきたい。
			各種イベントの告知、参加への促し	A		
			IT技術の発展により、他学校図書館との情報共有、問題解決	B		